

341 棚たなに上あげる

自分じぶんに不都合ふつごうなことは先送りさきわくにして触れふれずにおく。

342 他人たにんの空似そらに

血ちのつながりなどはなく、偶然ぐうぜん顔つきかおが似にている。

343 狸寝入ためきねいり

都合つごうの悪い時ときなどに寝たふりねをする。

344 種たねをまく

物事ものごとの原因げんいん、元凶げんきゆうを作つくる。

345 頼たのみの綱つな

頼たのりにしている人ひとや物もの。

346 駄目だめを押おす

間違まちがいがないと思おもわれる事柄ことばについて、確認かくにんして更さらに確実かくじつにする。

347 袂たもとを分わかつ

共ともに行動こうどうしてきた者ものと別わかれる、関係かんけいを断たつ。

348 便たよりのないのは良よい便たより

何なにかあれば連絡れんらくがあるはずなので、何なんの連絡れんらくもないのは、何事なにごともない証拠しじょうである。

349 血ちが通かよう

思おもいやりや気遣きづかいがあり、人間にんげんらしい温かあたたさを感じかんじる。

350 血ちが騒さわぐ

興奮こうふんして、じつとしていられなくなる。感情かんじょうが高たかぶる。

351 血眼ちまなこになる

目めを血走ちばしらせ、冷静れいせいさを失うしなうほど必死ひつしになる。

352 血ちも涙なみだもない

思おもいやりや優やさしさなど人間にんげん的な感情かんじょうがなく、冷酷れいこく。

353 茶々ちやちやを入いれる

途と中で邪魔じやまをしたり、冷ひややかす。

354 長蛇ちやうだの列れつ

蛇へびのように長ながく続つづく列れつ。

355 血沸ちわき肉躍にくおどる

興奮こうふんして気持きもちちが高たかまり、活かつり力がでる。

356 月夜つきよに提灯ちやうちん

不ふ必要ひつようなこと。無む駄目だなこと。

357 付つけ焼やき刃ば

その場ば限かぎりの間まに合あわせて知ち識しきや技ぎ術じゆつを習ならい覚おぼえる。

358 旋毛つむじを曲まげる

気き分ぶんを害がいして、ひねくれた態たい度どを取とる。

359 爪つめに火ひをともす

とでも貧ますしい。ひどくけち。

360 爪つめの垢あかほど

ごくわずか、非ひ常じょうに少すくないことことの例たとえ。